

消化器センター NEW ーす NO. 4

2015.10



C型肝炎は飲み薬で治す時代へ

皆様ご承知のごとく、インターフェロンを用いないインターフェロンフリーの経口2剤治療、ソノプレプラ(アスナプレビル)・ダクルインザ(ダクラタシル)が2014年9月に発売され、ジェノタイプ1型の患者さんの保険適用による治療が可能となりました。医療費助成も適用でき適用開始から1年たった現在、ウィルス消失状態を継続している患者さんが多数おられます。一方この経口2剤治療は薬剤耐性変異の有無が、治療効果に影響します。保険適用外の検査ですが、当院では本治療の施行を検討すべき患者さんには、大阪大学消化器内科の臨床研究の一環として測定し、その結果を元に治療方針を決定しています。

ジェノタイプ2型の治療は、長年ペグインターフェロン・リバビリン治療が行われてきました。治療成績は概ね80%前後で、効果的な治療でありましたが、インターフェロンの使用できない患者さんには施行できませんでした。2015年5月に2型に対してソバルディ(ソフォスブビル)・リバビリンが発売となり、当院でも現在治療開始される患者さんが増加しています。またハーボニー(ソフォスブビル・レディパスビル合剤)が7月に認可され、8月末より保険適用及び医療費助成による治療が可能になりました。

ソバルディの薬価は61,799円(1錠)、ハーボニーは80,171円(1錠)で、毎日1錠内服で12週間の治療です。これらの新薬は非常に高価な治療ですが、保険適用は無論の事、医療費助成が認められれば、納税額に応じての負担金で治療が可能です。

現在、半年単位でC型肝炎治療のガイドラインが改定されるため、その時点のワンベストの決定は非常に難解となっています。お気軽に肝臓専門医へのご紹介をご検討くださいませうお願い申し上げます。

文責:市立貝塚病院 消化器内科 垣田成庸



市立貝塚病院
TEL : 072-422-5865